

EU Indicators

欧州経済指標コメント：1-3月期英国GDP（速報値）

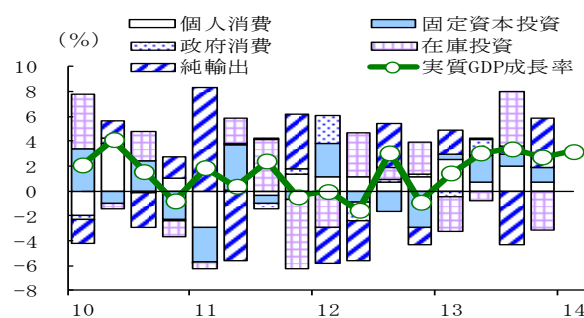
発表日：2014年4月30日（水）

～250年ぶりの大雨も乗り越えて～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

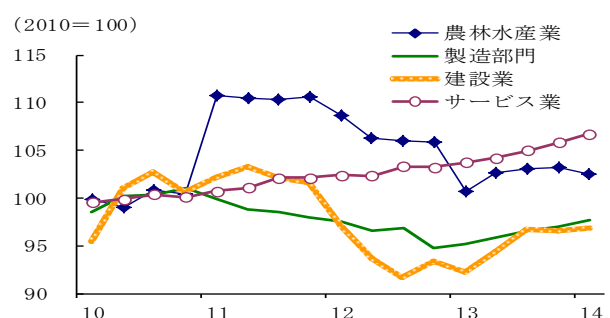
- 1-3月期の英国の実質GDP成長率の速報値（29日発表）は前期比+0.8%、同年率+3.2%と5四半期連続のプラス成長。事前予想をやや下回ったが、過去4四半期は同年率+3%前後の高成長が持続。来期に同+2.6%以上の成長を記録すれば、2008-09年の景気後退期以前のピーク水準を回復する。
- 業種別には、農林水産業が4四半期振りのマイナス（昨年10-12月期：同+0.2%→1-3月期：同▲0.9%）となった一方、建設業が2四半期振りの小幅プラス（同▲0.2%→同+0.3%）となったほか、製造部門（同+0.5%→同+0.7%）、サービス部門（同+0.8%→同+0.9%）が前期からやや加速し、好調を維持した。製造部門では、鉱業と電力・ガスほか公益業が落ち込んだ一方、製造業が大きく加速した。サービス部門では、企業向けサービス・金融業が前期並み、流通・宿泊・飲食業と輸送・倉庫・通信業が前期から加速した。なお、需要項目別の内訳は5月22日の改定値で発表される。
- 昨年12月から記録的な豪雨に見舞われ、年明け以降も洪水被害が多発している。農林水産業など一部の業種に影響が出た模様だが、経済全体を大きく押し下げるには至っていない。政策需要にも後押しされた建設需要がやや一服するなか、雇用情勢の改善と物価沈静化で家計の実質購買力が支えられているほか、主要輸出先である欧米諸国の景気持ち直しもあり、英国では順調な景気拡大が続いている。
- 利上げ観測を背景に為替や金利が上昇傾向にあり、今後は景気拡大がややペースダウンすると予想されるものの、4-6月期入り後も企業や家計の業況判断が上向いており、堅調な景気拡大が示唆される。

■英国：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英国家統計局

■英国：業種別GDP



出所：英国家統計局

■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需		輸出	輸入
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
12/7-9月期	3.1	3.1	(▲0.4)	1.2	0.9	▲10.5	(0.9)	(3.6)	14.0	1.9
12/10-12月期	7.4	▲0.9	(0.6)	1.8	0.9	▲18.9	(2.6)	(▲1.4)	▲4.5	▲0.1
13/1-3月期	3.2	1.4	(▲0.5)	3.9	▲2.1	3.4	(▲2.8)	(1.9)	▲3.8	▲9.1
13/4-6月期	0.4	3.1	(3.0)	1.1	5.9	16.8	(▲0.8)	(0.1)	10.3	9.6
13/7-9月期	5.9	3.4	(7.7)	3.1	2.5	7.7	(4.4)	(▲4.3)	▲7.5	6.1
13/10-12月期	6.7	2.7	(▲1.3)	1.2	0.1	7.9	(▲3.2)	(4.0)	11.6	▲1.6
14/1-3月期	-	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：英国家統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。